

「パパ、ママ、会いに来たよ」
AIで死者を“復活”
中国で新ビジネスが論争に
「冒とく」か「心の救済」か

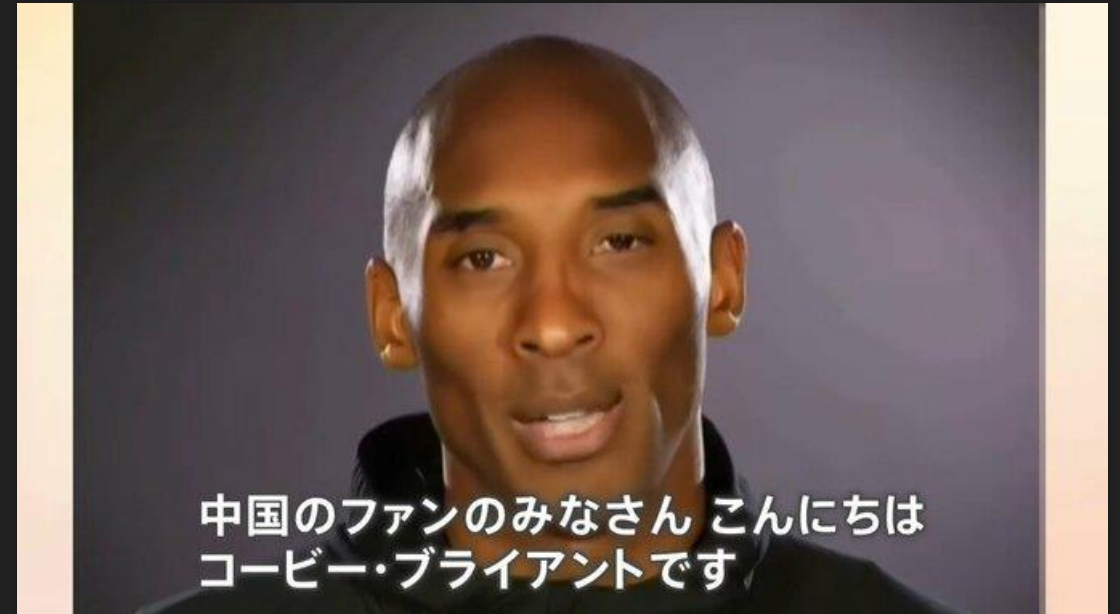
生成AIで死者を復活させるビジネス

- 張沢偉さんが去年、生成AIで死者を復活させるビジネスを開始
- これまでにおよそ1000人の「死者を復活」
- およそ1週間で完成し、費用は4000元（約8万円）から



「死者への冒涇」 「肖像権の侵害」

- 2020年に事故で亡くなったアメリカのプロバスケットボール選手、コービー・ブライアントさんが流暢な中国語を話す動画
- 亡くなった有名人を生成AIで勝手に復活させてしまうケースが相次ぐ



張沢偉さんのコメント

悪用されないよう本人や家族の同意をとっているとした上で

- 自分たちのやっていることは、人助けになる
- 人々に精神的な安らぎをもたらしている
- 夢は普通の人でデジタルの力で『永遠に死なない』ことを実現すること

記事へのコメント

肯定的

- 悲しみにくれる人々が愛する人との「会話」を通じて心の平和を得る手助けができるかもしれません。これにより、喪失感の処理が容易になり、心のケアが向上する可能性があります。
- 受け止めきれていなかった辛さを、少しの間癒してくれて、受け止める余白をくれるのであれば、その後の生きる強さにつながるのであれば、素晴らしいサービスだと思う。
- 宗教法人と相性が良さそう。面白いビジネスになりそう。

否定的

- 過去の人との「交流」が現実との境界を曖昧にすることで、現実の人間関係が疎外されるかもしれない。
- 依存しちゃったりしていつまでも次の一歩が踏み出せないパターンになっちゃうとまずいよね。
- ついに死んでも死にきれない時代が来てしまった。

感想

- 家族がAIによる復活を望んだ場合でも、自殺などにより自ら命を絶った場合、故人は復活を望まないのではないか。
- 有名人をAIで復活させることは、一部のファンにとってうれしいかもしれない。しかし、このような形でファンが喜ぶ姿を、有名人は望んでいないのではないか。
- 記事へのコメントには、長期的な研究を行わなければならない、倫理の難しい問題であるといった意見もあり、この問題の善悪をすぐに決めるのは難しいと感じた。